

65	アハナ	ユウゲシヨウ	高岡市	中川上町	19950611	泉治夫	S	52138	71	C
66	アハナ	ウツキノウ	利賀村	岩淵	19940927	太田道人	S	46624	69	D
67	アリハクゲサ	材ワサ	富山市	田刈屋新町	19920702	太田道人	S	41415	67	C
68	ツジ	ツリガネツジ	小矢部市	平山	19930507	太田道人	S	24774	68	D
69	ツジ	村キリガネツジ	福光町	白兀平	19890722	太田道人	S	21509	69	A
70	サクラウ	アハナリハコバ	富山市	古沢	19900604	穴田哲	S	23033	65	C
71	イソマ	ハマサジ	黒部市	石田浜	19620717	長井真隆	S	17044	63	E
72	キョウチクトウ	チヨウジノウ	平村		19660612	里見信生	S	15436	62	E
73	ガガイ	ソルガシ	福光町	糸谷	19901002	堀与治	S	34222	66	D
74	ヒルガオ	マメアサガオ	富山市	水橋中村町	19890224	太田道人	S	38431	67	C
75	シ	キノウ	福岡町	城ヶ平山	19840829	太田道人	S	12762	61	D
76	シ	ナガバハツカ	氷見市	鞍川	19880731	泉治夫	S	18163	46	C
77	シ	シラゲヒメジリ	上市町	堤谷	19901016	太田道人	S	23114	65	D
78	シ	ニガクサ	黒部市	福平	19620809	長井真隆	S	16376	63	E
79	ゴマノハグサ	スズメノハコバ	富山市	向新庄	19761007	大場達之 写真			6	E
80	ゴマノハグサ	ホバウラン	富山市	草島	19920501	石田千佐子	S	41419	67	C
81	ゴマノハグサ	アメリカアサナ	富山市	水橋柳寺	19830921	太田道人	S	11128	63	B
82	ゴマノハグサ	ヤマクガタ	大山町	折立	19890715	太田道人	S	21379	64	D
83	アサ	ヒナウ	魚津市	黒谷	19891015	小路登一	S	31832	65	D
84	アサ	ハヤエムクラ	高岡市	姫野	19920610	泉治夫	S	29501		C
85	スイカズラ	ヤマウケイソク	大沢野町	御前山	19790717	大田弘	S	34348	68	E
86	レンブクワ	レンブクワ	福岡町	赤丸	19890414	奥田景子	S	19267	64	D
87	キヨウ	キヨウ	婦中町	鉢木	19860615	河瀬	S	17144	63	C
88	キ	カミルモトキ	婦中町	吉谷	19890608	太田道人	S	22239	64	C
89	キ	ヤナヒラコ	立山町	白岩川源流	19880919	太田道人	S	31442	65	C
90	キ	クチチコグサ	婦中町	吉住	19940515	元秋建	S	29726	69	C
91	キ	アキノハコグサ	朝日町	棚山	19350928	進野久五郎	S	34898	69	E
92	キ	チコグサモドキ	高岡市	中川	19890709	泉治夫	S	19430	47	C
93	キ	ウラジロチコグサ	富山市	安野屋	19940515	太田道人	S	45544	69	C
94	キ	ウスゲタマブキ	大山町	有峰東谷	19890915	太田道人	S	19439	64	D
95	キ	ヤナヒラコ	大山町	有峰冷谷	19910929	太田道人	S	26034	70	D
96	キ	トゲチヤ	入善町	墓の木	19950828	太田道人	S	52057	70	C

(1995年12月30日受理)

富山県におけるカタクリの新産地

長井 幸雄
富山県総合教育センター

An Additional Locality of *Erythronium japonicum* Decne. in Toyama Prefecture

Yukio Nagai
Toyama Prefectural Education Center

カタクリ *Erythronium japonicum* Decne. は早春季植物の代表として親しまれている。富山県下におけるその分布は丘陵帯上部から山地帯上部にかけて広く分布している。1994年に富山県下で最も標高が低いと考えられる生育地を発見し、1995年4月16日と同年5月28日に調査を実施したので報告する。

カタクリの生育地は小杉町林寺の射水丘陵が平野と接する標高20mの地点である。富山県下で最も標高の低い生育地と考えられる。なお筆者は1975年に、仙人山の標高2000m付近のブナとマルバマンサクの混生する低木林にカタクリが生育しているのを確認している。本地点は県下で最も標高の高い生育地と考えられる。

表1 カタクリ生育地の植生

調査日	1995年5月28日		調査面積	5 × 10 m ²
階層	出現種 (被度・群度)			
高木層	スギ(4.3)	ケヤキ(+)		
亜高木層	スギ(+)			
低木層	メダケ(1.1)	スイカズラ(+)	キツタ(+)	
草本層	ベニシダ(1.2)	ワラビ(1.1)	チャノキ(+)	
	ミツバアケビ(+)	ミヤマフユイチゴ(+)	キツタ(+)	
	アケビ(+)	ハイイヌツゲ(+)	チヂミザサ(+)	
	フジ(+)	キタコブシ(+)	ヤマウルシ(+)	
	ムラサキシキブ(+)	エゾアジサイ(+)	ヤブコウジ(+)	
	ヒメアオキ(+)	オオナルコユリ(+)	ヤブカンゾウ(+)	
	マムシグサ(+)	ジャノヒゲ(+)	ホウチャクソウ(+)	
	カタクリ(+)	シオデ(+)	サイハイラン(+)	
	ヒガンバナ(+)	ドクダミ(+)	イタドリ(+)	
	カキドオシ(+)	ツルニンジン(+)	ヤエムグラ(+)	
	ヒナタイノコズチ(+)	アキカラマツ(+)	オニタビラコ(+)	
	ヨツバヒヨドリ(+)	ノブドウ(+)	ヤエムグラ(+)	
	ゼンマイ(+)			

富山県新記録のエゾミクリについて

長井 真隆
富山大学

An Additional Record of *Sparganium emerosum* Rehmam from
Toyama Prefecture
Sinryu Nagai
Toyama University

富山県内未記録のエゾミクリを採集したので報告する。併せて同定を頂いた神戸大学理学部角野康郎氏に衷心より感謝申し上げる。

エゾミクリ *Sparganium emerosum* Rehmam

採集地 富山県中新川郡上市町東種
海拔296m

採集年月日 1995年9月30日

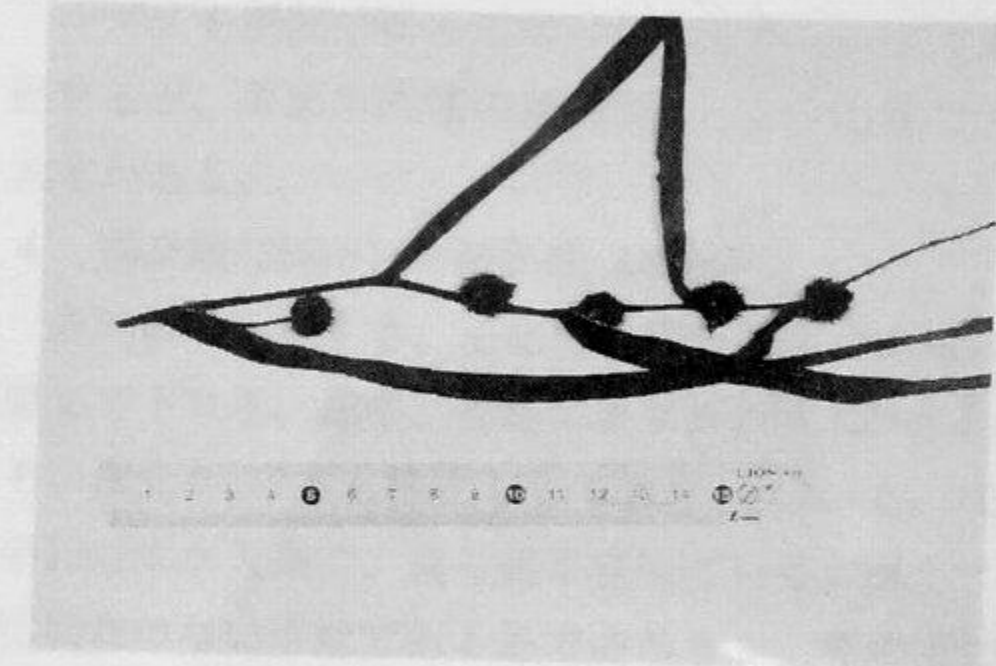
生育環境 幅80cmほどの農業用水路で、流れはほとんどなく水深は約10m

採集品を角野康郎著『日本水草図鑑』で検索したところ、3~4個の雌性花序が、下のものから順に「有柄で腋性→有柄で腋上性→無柄で着性」という典型的なパターンであったのでエゾミクリと判断したが、正確を期すため著者の角野康郎氏に同定を依頼し、併せて隣接県の産地についておたずねした。著者からは次のような要旨を得た。

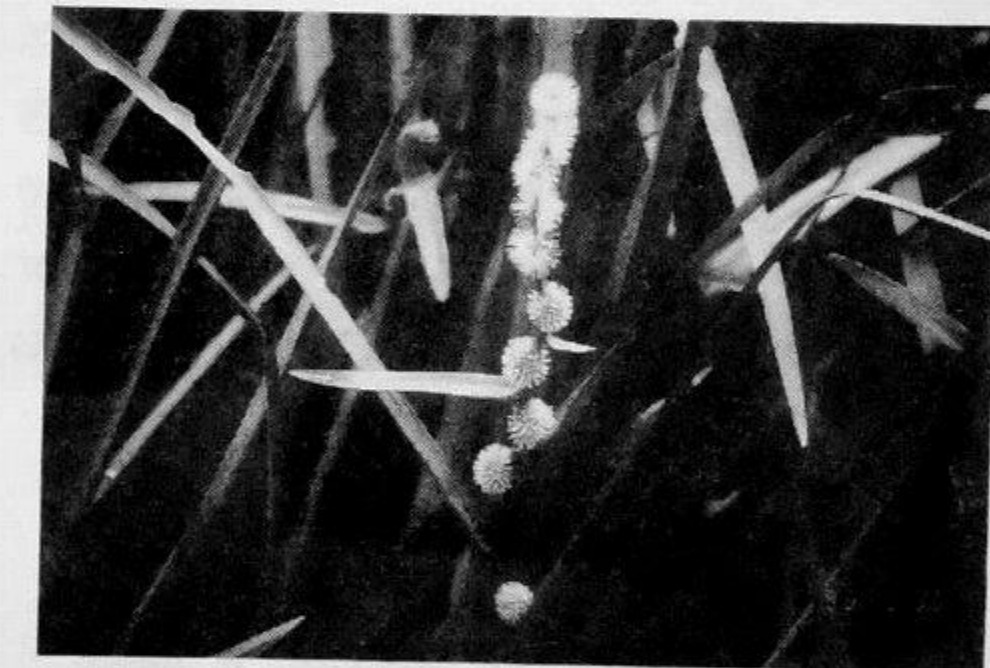
標本はエゾミクリに相違ない。今まで新潟県や長野県の分布を確認していたので、富山県が気になっていた。この標本で富山県の分布が確認できて嬉しく思う。富山県下の河川ではナガエミクリが優占種だろうが、エゾミクリもあるかも知れない。今後の調査に期待したい。隣接県の標本(神戸大学所蔵)のデータは以下のとおりである。

- 1 新潟県北蒲原郡中条町富岡, 水路
1988.10.4 伊藤 至 29178
- 2 長野県白馬村神城(姫川水系の水路)
1990.7.28 角野康郎 6791

以上



エゾミクリの雌性花序のつき方



エゾミクリの生育状況(上市町東種)

なお、文献で調べたところ、環境庁『維管束植物種都道府県別分布表』には北海道、青森県、福島県の3道県から生育の確認が報告されており、また角野康郎『日本水草図鑑』の分布図では北海道(11地点)、青森県(2地点)、岩手県(22地点)、福島県(1地点)、秋田県(2地点)、山形県(1地点)、新潟県(1地点)、長野県(2地点)の計8道県に標本の採集地点が示されている。

これに今回の富山県を加えると9道県になる。いずれにしても分布は本州中部以北・北海道に限

カタクリは、小杉町を南北に流れる下条川の堤にそった緩やかな北斜面のスギ植林地の林床に幅約10m長さ30mにわたって生育している。この個体群は、開花個体、未成熟個体、実生から構成されるが、個体群密度は低い。カタクリの同化器官が枯死した5月下旬の生育地の植生を、表1に示した。高木層には樹高18mのスギが優占するが、亜高木層と低木層が発達していないため林床は比較的明るい。さらに、生育地が林縁に位置するため、光が入射しやすい環境にある。

カタクリは夏緑樹林を主な生育環境とする早春季植物であり、同化器官を地上に展開する期間は2ヵ月足らずと極めて短く、その光合成特性は陽生植物型である(Kawano et al., 1978)。また、カタクリは完全な他花受精花であり(Kawano and Nagai, 1982)、受粉は昆虫によって行われる(河野, 1978)。このため、カタクリの個体群の存続には早春季の陽光と送粉昆虫が不可欠である。本生育地の個体群は開花個体の密度は低いものの、さまざまな年齢のものが含まれている。1995年5月28日の観察では、果実を形成している個体も確認された。このことから、このカタクリの個体群は人為的な環境の改変や盗掘がなされなければ、個体群が維持されていくものと考えられる。

本生育地はスギ植林地であるが、周辺の丘陵地はコナラ林が広がっているため、スギが植林される以前はコナラ林であったものと推測される。また、本生育地の近くの標高20mの日ノ宮社叢にはウラジログシ林が残存していることから、本生育地一帯の原植生はウラジログシを中心とした照葉樹林であったと考えられる。カタクリはブナ林の

林床植物の構成要素とされる(河野, 1987; 近田, 1991)。原植生がウラジログシ林と考えられる標高20mの地点に、ブナ林を本来の生育環境とするカタクリが生育することは、富山県下でのブナ林とウラジログシ林の変遷過程を考察する上で重要であり、この生育地の保護対策が強く望まれる。

引用文献

- 河野昭一, 1978. 花と昆虫—その共存の世界2—。インセクトリウム 15:114-118.
- , 1987. 世界のカタクリ—その分布と多様性—。採集と飼育 49:100-103.
- Kawano, S., Takasu, H. and Nagai, Y., 1978. The productive and reproductive biology of flowering plants. IV. Assimilation behaviour of some temperate woodland herbs. J. Coll. Lib. Arts, Toyama Univ. Japan. 11:33-60.
- and Nagai, Y., 1982. Further observations on the reproductive biology of *Erythronium japonicum* (L.) Decne. (Liliaceae). J. Phytogeogr. & Taxon. 30:90-97.
- , Hiratsuka, A. and Hayashi, K., 1982. The productive and reproductive biology of flowering plants V. Life history characteristics and survivorships of *Erythronium japonicum*. Oikos 38:129-149.
- 近田文弘, 1991. ブナ林の植物相。「ブナ林の自然環境と保全」(村井 宏ほか編), 35-51. ソフトサンエンス社, 東京.

(1995年12月29日受理)